

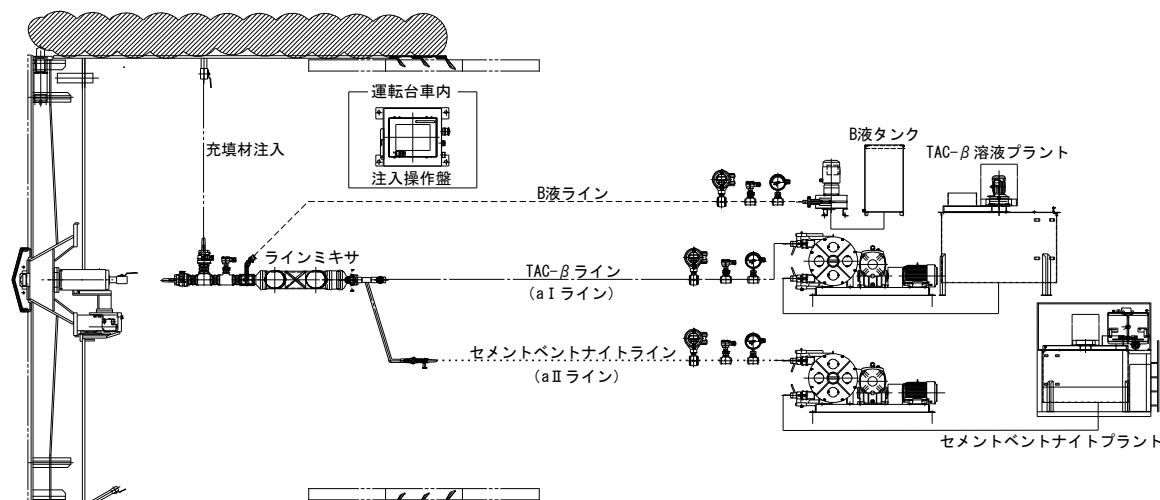
硬化型クレーショック

TAC 技術情報
C-017002

地山強度を有する三液式の硬化型充填材

●概 要

硬化型クレーショックは、TAC-β 溶液(a I 溶液)とセメントベントナイト溶液(a II 溶液)の二液をラインミキサで混合した後、TAC-3G(B 液)を 1.5 ショットさせる新しいクレーショックです。



硬化型クレーショックの注入フロー図

●お客様のメリット

- a I 溶液、a II 溶液、B 液の三液混合後にはクレーショックと同等の粘性を有していますが、経時とともに強度が発現するため、注入後の置換が不要です。
- a I 溶液と a II 溶液の比率を調整することで、間隙充填材から粘土モルタルまで様々な配合の選択肢を有しています。

硬化型クレーショック(粘土モルタル)配合例 (1.05m³ 当り)

a I : a II 混合率	a I 液		a II 液				B 液
	助材	混練水	硬化材	助材	安定剤	混練水	塑強調整剤
	TAC-β	清水	高炉セメント	TAC-β	TAC-Re	清水	TAC-3G
1:0	520 kg	800 L	—	—	—	—	50 L
3:1	390 kg	600 L	38 kg	33 kg	2.5 kg	221 L	50 L
2:1(推奨)	346 kg	533 L	50 kg	50 kg	3.3 kg	295 L	50 L
1:1(推奨)	260 kg	400 L	75 kg	75 kg	5.0 kg	443 L	50 L
0:1	—	—	150 kg	150 kg	10.0 kg	885 L	50 L



a I 溶液と a II 溶液の混合状況



A 液と B 液の混合状況



A 液と B 液の混合後

●特 徴

- 混練直後の粘性は 400～500dPa・s で、クレーショックと同等の粘性を有しています。

粘性測定例（リオン株式会社製ビスコテスターVT-04F 2 号および 3 号ローター使用）

a I : a II 混合率	a I : a II 混合後 (dPa・s)	A 液(a I + a II) : B 液混合後 (dPa・s)
1 : 0	2	500
3 : 1	45	500
2 : 1(推奨)	8	450
1 : 1(推奨)	5	400
0 : 1	0.3	150



粘性測定状況

※清水:0.01dPa・s、マヨネーズ:80 dPa・s、チューブグリス:300 dPa・s

- 28 日で 0.02～0.08N/mm²、56 日で 0.02～0.09N/mm² の一軸圧縮強度を発現します。

一軸圧縮強度測定例

a I : a II 混合率	28 日強度 (N/mm ²)	56 日強度 (N/mm ²)	備 考 出典:理工図書、「新ボーリング図を読む」、p165
1 : 0	0.01 (τ =5kPa)	0.01 (τ =5kPa)	N<2 (非常に軟らかい)、<0.025N/mm ²
3 : 1	0.02	0.02	N<2 (非常に軟らかい)、<0.025 N/mm ²
2 : 1(推奨)	0.03	～0.04	N=2～4 (軟らかい)、0.025～0.05 N/mm ²
1 : 1(推奨)	0.08	～0.09	N=4～8 (中くらい)、0.05～0.1 N/mm ²
0 : 1	0.8	～1.0	N>30 (大変硬い)、0.4 N/mm ² 以上

●現場施工状況



●施工実績

施工 着手年	発注者	工事名	施工場所	シールド 外径(mm)	採用目的	備考
2017	西日本高速道路 株式会社	新名神高速道路有野川橋西 (下部工)推進工事	兵庫県	□2,500× 2,000	置換不要な硬化する 推進滑材	